

もど子と人婦

日一月三年六正大
號三第卷七十第

窓を開け。窓を開け。汚れた瓦斯を出す爲ばかりでなく。暖い日光と、軟い空氣と、かぐはしい花の香と、賑かな小鳥の歌とを迎へ入れる爲に。そして春を幼稚園一ぱいに漲らせる爲に。

黒い重いストローブは取片けられた。序に冬らしい一切の名残りを取除けよ。壁を拂へ、床を洗へ。額の繪も取りかへよ。隅棚の裝飾も取りかへよ。そして、春を春らしく迎へることを忘れるな。

春が来る。どこから来る。垣根を越えてプランコの上からも来る。籬に沿ふて草からも来る。砂場の砂の日影からも来る。子供達をして此の春を迎へしめよ。此の春と交らしめよ。此の春に親しましめよ。遊園へ遊園へ。春の遊園へ。

子供等の着物は軽くなつた。其の軽い裾を短くして、どこ迄も春を追ひゆかしめよ。廣い野、そこには、草花が笑つて居る、蝶が舞つて居る。春が子供等を待つて居る。自然がそこに大きな幼稚園を準備して居る。

春の海邊にも幼稚園がある。そこで子供等は遠い春の海を見渡すことが出来る。遠くく、子供等の心は、目に見えない遠くまでゆくことが出来る。丘の上にも幼稚園がある。そこに子供等は廣く春の野を見おろすことが出来る。高くく、子供等の心は、其の脚が上り得るよりも高くゆくことが出来る。廣くく、高くく。子供の心は大きく、ゆつたりと伸びてゆく。

春が来る。春が来る。子供達の爲に春が来る。幼稚園の爲に春が来る。